

射水郡伏木 堀田家文書目録

①近世(小計 38件46点)

通No.	仮No.	表題	年代	西暦	差出	宛所	形態	寸法	数量	丁数	備考
1	717-2	本多政質銀子借用証文	享和元年7月12日	1716	今村与助、三井冲右衛門、山田六左衛門、河瀬太郎右衛門	伏木鶴屋善右衛門	縦紙	33.8×50.6	1		銀4貫目。政質は加賀八家本多家4代。差出は同家家臣。包紙あり
2	161	大豆預り手形(前欠)	享保2年10月9日	1717	伏木鶴屋善右衛門	高岡開発屋庄右衛門	切紙	23.9×20.3	1		50俵
3	661	伏木沖大瀬中鱒網場御尋につき返答書	安永7年7月24日	1778	伏木村善右衛門、同村源右衛門	郡奉行所	切紙	24.2×26.5	1		
4	662	本吉明翫屋嘉兵衛船御米積船宿覚(案)	安永8年3月	1779	船宿鶴屋善右衛門	大塚次郎太夫	切紙	24.1×27.9	1		加賀本吉は現白山市美川町
5	714-2	為登大坂御米積問屋蔵米留控	安永8年3～6月	1779	鶴屋善右衛門	五十里村庄助、大塚次郎太夫	縦帳	24.3×17.8	1	18	明翫屋加兵衛冲船頭(雇われ船長)弥兵衛、善右衛門方に指留の件、御米積請船宿の件
6	718-3	本吉明翫屋加兵衛船伏木浦御米積船宿に付願書	安永8年	1779	伏木鶴屋善右衛門	五十里村庄助	継紙	24.9×67.2	1		五十里村庄助は十村の高島家
7	718-2	伏木浦御城米船宿の積請願書	安永9年	1780	伏木村善右衛門	五十里村庄助	切紙	23.8×30.9	1		
8	571	取水定帳一ノ宮村肝煎与左衛門等証文他	寛政3年11月	1791	一ノ宮村肝煎与左衛門等3名	伏木村肝煎助左衛門等5名	切紙等		4		
9	773	取水諸入用覚帳	寛政3年11月	1791	能登屋三右衛門、鶴屋善右衛門等9名		縦帳	24.0×17.5	1	5	
10	34	東広上村高切高証文一括	寛政3年12月	1791	懸作小泉村勘助	伏木村善右衛門	続紙	22.2×41.2	5		包紙あり(「東広上村／拾石九升切高証文」)
11	651	御高余米之事	寛政4年12月	1792	打出本江村 市左衛門	伏木鶴屋善右衛門	切紙	24.0×20.0	1		
12	716-4	小作請合証文(前欠)	寛政13年1月	1796	小泉村左衛門	伏木つる屋善右衛門	切紙	24.0×23.9	1		御年貢米は高岡町蔵にて小切手渡し
13	649	切高証文	寛政10年午12月	1798	打出本江村切高人 市左衛門 同一門 下村屋喜兵衛、同高請人 孫右衛門	懸作伏木鶴屋善右衛門	続紙	21.8×58.8	1		
14	57	小作請合証文	寛政13年1月	1801	東広上村小作 仁三口	広上村懸作伏木鶴屋善右衛門	切紙	23.9×16.8	1		
15	656	切高証文	寛政12年	1800	荒屋村八郎右衛門、一門甚七	伏木善右衛門	続紙	24.3×67.6	1		
16	657	切高証文	寛政12年11月	1800	国分村文兵衛、国分村三蔵	伏木善右衛門	続紙	22.9×36.7	1		
17	659	切高証文	寛政12年12月	1800	国分村三蔵等4名	伏木善右衛門	続紙	24.4×65.4	1		
18	716-6	小作請合証文	寛政13年1月	1801	東広上 小作 長左衛門	東広上懸作百姓伏木村善右衛門	継紙	24.4×20.0	1		
19	716-7	小作請合証文	寛政13年1月	1801	広上村 仁兵衛	広上村懸作伏木村善右衛門	切紙	23.6×20.8	1		
20	714-1	古府村宗兵衛持山永代売渡証文	享和元年12月	1801	古府村宗兵衛	伏木村善右衛門	切紙	23.9×42.5	1		
21	652	御高不時入用之事	文化元年12月	1804	中伏木村勘左衛門	鶴屋善右衛門	切紙	24.1×27.3	1		川除、手上高など
22	654	文化六年引替歩帳	文化6年1月	1809	矢田善次郎	鶴屋善右衛門	折紙	11.9×34.9	1		
23	55	吉久川下ヶ米並びに粟ヶ崎・木屋藤右衛門等御払米出船に付大坂船と半分割通達(写)	文化12年3月22・28日	1815	算用場	山森小源太	継紙	16.9×111.3	1		3000石を大坂船1500石、残りは御払米と粟ヶ崎木屋藤右衛門等へ渡すこと。山森は御詰米奉行
24	658	切高証文	文化13年11月	1816	伏木村半兵衛、同村一門半四郎	伏木鶴屋善右衛門	続紙	23.9×57.5	1		6.5石一ノ宮村領、宝永5年(1708)新開高他1ヶ所、計10.071石
25	36	出船御用取捌之覚・伏木浦出船人足賃銀定帳(合綴)	弘化2年2月・文政3年1月	1845・1820	算用場		横半帳	11.6×16.5	2	25	「出船…」20丁、「伏木…」5丁
26	170	中村弥五左衛門家先祖由緒并一類附帳(写)	嘉永4年2月	1851	中村鍋二郎	多賀建物、沢田与三右衛門	袋綴	23.8×17.5	1	5	綴外れあり
27	199	「本しらべ 大阪大地震の次第 初編」(写)	嘉永7年11月4日	1854			継紙	35.3×47.0	1		
28	58	御用地割歩帳	安政2年春	1855	一ノ宮村懸作 伏木村善右衛門		横半帳	12.1×18.0	1	7	
29	198	「大江戸類焼 地震所附」(版本)	安政2年10月	1855			継紙	35.2×62.7	1		「御救御小屋三ヶ所」「浅草広小路／深川海辺大工町／幸橋御見附外原」
30	719-2	金銀通(綿)	文久4年1月	1864	帯屋良兵衛(印「左海(塚)」)	鶴屋善右衛門、御支配松村屋利兵衛	横帳	15.0×44.2	1	1	
31	156	金子借用証文	慶応3年4月16日	1867	みの屋長九郎代 朝日新町武右衛門	鶴屋善右衛門	切紙	24.4×18.3	1		50両
32	53	雇船之内上着之分敷運賃指引銭調理帳	慶応4年4月	1868	嶋崎庄		横帳	12.3×33.1	1	4	六渡寺、高岡、石動、放生津の回船問屋との商売
33	716-5	借入金返済証文	慶応4年12月27日	1868	野崎屋六三郎	鶴屋善右衛門	切紙	23.9×32.5	1		15両。貼紙「慶応四年」あり。慶応4年9月に明治改元
34	717-1	伏木浦御城米船宿に付願書控	亥6月6日		伏木村善右衛門	御郡御奉行所	継紙	15.5×139.0	1		以前の願書は五十里村庄助を通して提出。伏木の西海屋(高井)万右衛門・網屋(岩坂)助左衛門との争い
35	718-1	伏木浦御城米船宿に付願書案	亥6月6日		伏木村 鶴屋善右衛門		切紙	22.0×30.2	1		同上
36	655	銭借用証文	丑6月23日		吉岡屋宇兵衛、代 喜三郎(印「能州皆月 吉岡屋嘉三郎」)	鶴屋善右衛門	継紙	15.4×35.6	1		150貫文。皆月は現輪島市門前町
37	228	鶴屋善右衛門に産物方御用荷物等支配方仰せ付けにつき書状	辰(慶応4年カ)7月1日	(1868年カ)	高嶋庄右衛門	伏木鶴屋善右衛門	継紙	15.4×53.5	1		任命状の写し(算用場→射水郡奉行)とそれを伝達する、郡奉行・山崎久米之介→高嶋宛の写しも記載。山崎は慶応2(1866)年11月就任なので、辰年は慶応4年と思われる
38	660	切高覚(案)			三十三ヶ村より懸作 甚四郎		切紙	24.4×14.6	1		25.5石